筑紫女学園大学リポジト

# Expressiveness of American English in Towns (Part One)



| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2014-02-13<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 小木野, 一, OGINO, Hajime<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/133 |

# 街 角 の 米 国 英 語

## ―その表現のあや―（その１）

小 木 野　　一

## Expressiveness of American English in Towns (Part One)

Hajime OGINO

### まえがき

2008年の夏、旅行で訪れた米国の都市で見つけた英語（米国英語）を取り上げて、英語学的観点より分析、説明を行う。

### １．音声的効果を使ったあや

#### １．１　音声記号によるもの

（1）

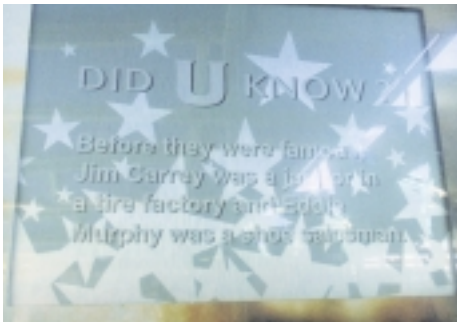



これは Copley Square Hotel のキャッチコピーで、全体が手紙形式になっている。音声記号（らしい）［Re:］は手紙の最初に書かれる Reference to「･･･に関する」を意味するものと思われる。Creating A Legend は、「伝説になるような（有名なホテル）造りをすること」という意味であろう。上に見られる perfectly, yours は手紙の結び文句でよく使われる sincerely yours に代るもので、ホテルは「完璧な状態である」ということを表しているものであると考えられる。

## １．２　音合わせによるもの

音合わせは、発音が同じか、あるいはきわめて良く似た語を重ね合わせた一種の言葉遊びが見られるものである。

（2）




U［ju:］と you［ju:］を掛け合わせている。Did U know?「知っていましたか」

（3）




2（two）［tu:］と to［tu:］を重ねている。Get it 2go「（急いでいるのであれば、朝食に）もってこい」

（4）




4（four）［fɔ: r］と for［fɔ: r］、2（two）［tu:］と to［tu:］がそれぞれオーバーラップしている。（5）はそれらをスペルアウトしたものがある。

4（for）back 2（to）school「（9月）新学期のはじまりに」

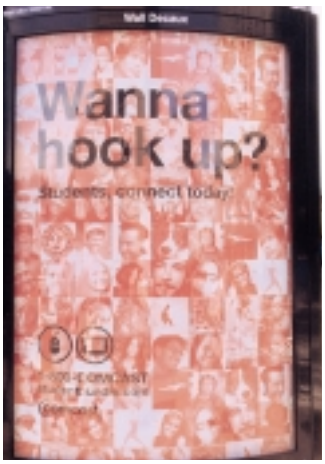
（5）




### 1．3　音の融合によるもの

音の融合は、相隣り合う音が影響し合って、一種の同化現象を起こして音が変化し、お互いの音が一つの音として溶け合っているものである。

（6）




want to［wɑnt tə］が［wɑnn nə］となり、さらに［wɑnnə］と融合して、wanna と一語のように綴られている。wanna hook up は「インターネットの接続を行いたいですか」と意味であろう。

（7）




lot of［lɑt əv］が［ lɑtəv］となり、さらに［lɑtə］と融合して、lotta と一語として綴られている。

a whole lotta lunch は「たっぷりいっぱいのランチ」という意味である。

### １．４　最小対立ペアーによるもの

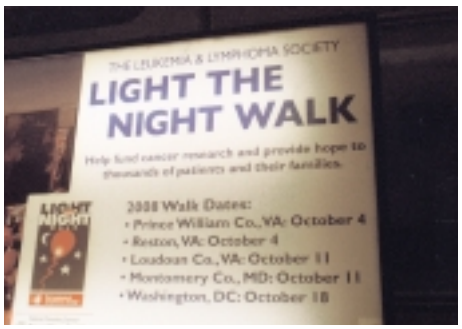
最小対立ペアーとは２つ以上の語の発音が、一音のみが異なり、他の部分の発音が同じ場合をいう。たとえば諺　Health is better than wealth「健康は富に勝る」において health［helθ］と wealth［welθ］では、最初の音［h］と［w］のみが異なり、他の部分［-elθ］は同じである。したがって語頭の［h］と［w］のみで単語の違いが生じていて、health と wealth は最小対立ペアーということになる。

（８）




taste［teist］と waste［weist］で［t］と［w］がコントラストしている。Taste, not waste「味わってもよいが、むだにしてはいけない」

（９）




light［lait］と night［nait］で［l］と［n］が対立し、他の部分の発音は同じである。意味的にも night「夜の暗さ」と light」明るさ」が対比されている。Light the night walk「（白血病やリンパ腫の慈善事業のため）夜のウオークラリーに灯火をもって歩いて明るくする」

(10)




chill［tʃil］と bill［bil］で［tʃ］と［b］のみが異なる。More chill, less bill「もっと冷たいものを飲んでも、勘定は少ない」

(11)




ditch［ditʃ］と dish［diʃ］で［tʃ］と［ʃ］が対立している。Ditch the dish「（皿状の）衛星放送受信アンテナを捨てて（換えてケーブルに）」というコピーである。

(12)




live［liv］と love［lʌv］の最小対立ペアーを使っている。あるとき Love your life you live, Live your

life you love という英語が書かれているＴシャツを着ているのを見かけたことがある。

### １．５　頭韻によるもの

一文の中で複数の語の最初の音の発音が同じである場合を頭韻といい、文にリズムを生み出す効果がある。たとえば諺で Better bend than break「負けるが勝ち」では better［betər］, bend［bend］, break［breik］の３語の最初の音が［b」である。

(13)




これは、明らかに Gogh［gɔx］と go［gou］の頭韻［g］を利用したものである。Where Did Van Gogh　Go?［バン・ゴッホはどこに行ったのか（美術館が改修中のため印象派のバン・ゴッホの絵画が展示されていないことを説明している）］

(14)




worst［wə: rst］と week［wi: k］で頭韻［w］が使われている。Worst Week「最悪の週」

(15)




compliment［kɑmpliment］と complaint［kəmpleint］で頭韻［k］が使われている。Compliments or

Complaints, Let us know「お気に入ったことあるいはご不満があったらお知らせください」

(16)



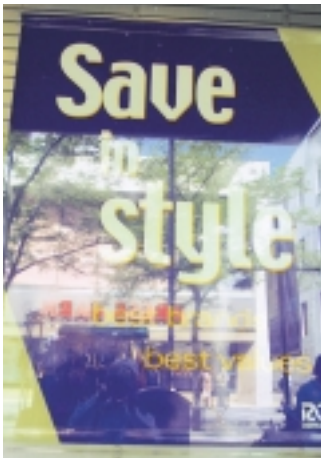

reputation［repjuteiʃən］と relationship［rileiʃənʃip］で、頭韻は［r］である。We earn our reputation one relatonshipat a time「私たちの良い評判を口こみで（by word of mouth）で獲得する」

(17)




fool［fu: l］と friend［frend］で、［f］が頭韻である。Fool a friend「友達に一杯食わせる」

(18)




save［seiv］と style［stail］の二語の頭韻は［s］である。Save in Style［このようなスタイルのファッションを買って節約する～節約できてカッコよくなれる」という二つの意味が込められているのであろう。

(19)




breakfast［brekfəst］と Ben［ben］の頭韻は［b］である。Breakfast with Ben［わたくしどもベンのところで朝食を］

(20)




laugh［læf］, learn［lə: rn］, land［lænd］の三語の頭韻は［l］である。Laugh and learn by land and sea「水陸両用車で楽しんで学んで下さい」

(21)




smile［smail］と summer［sʌmər］で頭韻［s］が使われている。Smile, It‘s summer「笑って、夏です」

(22)




cookies［kuki: z］と cream［kri: m］の頭韻は［k］である。Cookies n‘ Cream Chill「クッキーとクリムのつめたいの」

(23)




clean［kli: n］と coal［koul］で頭韻は［k］である。Clean coal「クリーンな石炭］はコークスのような無煙炭ににたものであろう。

(24)




safe［seif］と sorry［sɑri］で［s］が頭韻である。Better safe than sorry「つまらないと思うよりは安全がよい」

(25)




scope［skoup］と score［skɔ: r］の頭韻は［sk］である。Scope out the big names「知名度のある人にねらいをつける」、Score some kickbacks「リベートを手に入れる」

## １．６　脚韻によるもの

脚韻は、文中の複数の語の末尾の発音が同じ場合をいい、文に音声的なリズムが出る。よく知られている諺 A friend in need is a friend indeed「まさかの友は真の友」では need［ni: d］indeed［indi: d］と脚韻［－i: d］が使われている。

(26)




light［lait］、と flight［flait］で脚韻は［－lait］である。Light makes flight「（Nike［naik］の）軽い（シューズ）だと（高く）飛び上がることができる」

(27)




experience［ekspiriəns］と difference［difərəns］の脚韻は［－əns］である。Experience the difference「違いを経験してください」

(28)




redefined［ridifaind］と refined［rifaind］の脚韻は［－faind］である。Redefined and Refined「すっきりしてかつ品が良い」

(29)




spots［spɑts］と hotspots［hɑtspɑts］の二語の脚韻は［－spɑts］である。you can work in more spots than just hotspots「ワイヤレスインターネットを使う（hotspots）よりもっとはやくアクセスできる」

(30)




dirty［dərti］, sexy［seksi］, money［mʌni］の三語の脚韻は［－i］である。ある意味では三語とも「きたない」ものである。

（おぎの　はじめ：英語学科　教授）

（続く）